

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

施設の概要

項目	施設概要
面積	総面積：22,800㎡ フィールド：6,149㎡
トラック	333バンク（走路333.33m）
管理棟	鉄骨造・2階建て 延床面積：146.67㎡ 1階：作業場、事務室、休憩室、倉庫、シャワー（1箇所）、給湯室、男子便所、女子便所 2階：倉庫、映像室、審判室、バルコニー
建築年	昭和62年（1987年）【築39年】
照明	設置なし
観客席	固定席なし



自転車競技場全景



外周フェンス



管理棟

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

施設の老朽化状況

- 自転車競技場は、走路舗装・バンク・インフィールドに加え、管理棟屋根や衛生設備などで老朽化が進行している。

区分	項目	主な老朽化状況	推定劣化度
競技場・トラック	滑走路	<ul style="list-style-type: none"> 改修後15年以上が経過し、表層のひび割れ、白化、滑り止め機能の低下 継ぎ目の段差、局所的な沈下、不陸 	D
	インフィールド	<ul style="list-style-type: none"> 芝面の凹凸・不陸、排水機能低下による滞水 	D
	フェンス	<ul style="list-style-type: none"> 目立った劣化はなし 	B
	排水施設	<ul style="list-style-type: none"> 側溝詰まり、滞水 	C
管理棟	屋根	<ul style="list-style-type: none"> 防水層の劣化、漏水跡の再発 	E
	床	<ul style="list-style-type: none"> 経年汚損 	C
	内壁	<ul style="list-style-type: none"> 雨漏り跡、カビ発生 	D
	天井	<ul style="list-style-type: none"> 天井材の剥離 	D
	構造部材	<ul style="list-style-type: none"> 耐用年数（19～27年）を超過し、接合部腐食が懸念される 	E
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 内装・衛生設備の老朽化（令和8年度に改修済） 	A
	シャワー室	<ul style="list-style-type: none"> パイプの劣化 錆水が出る 	E
	2階手すり	<ul style="list-style-type: none"> 錆による劣化 	E

(A=良好、B=やや劣化、C=劣化進行、D=著しい劣化、E=重大な劣化／更新要)



管理棟 空調なし



バンクのひび割れ



管理棟2階の手すり劣化



管理棟2階の塗装劣化

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

バリアフリーの状況

- 管理棟はバリアフリー未対応である。

分類		チェック項目	評価	概要
敷地内通路・出入口		通路幅120cm以上	○	基本的に基準確保。
		滑りにくい仕上げ	△	老朽摩耗あり。
		段差なし／スロープあり	×	一部スロープ急こう配。
		出入口幅80cm以上	○	確保済み。
		自動ドア等で容易に開閉	×	手動扉。
管理棟	廊下・動線	幅120cm以上	×	未整備。
		滑りにくい仕上げ	×	未整備。
		階段・傾斜路前に点状ブロック	×	未整備。
	階段・傾斜路	手すり設置	×	未整備。
		勾配1/12以下	×	未整備。
		段鼻色コントラスト	×	未整備。
		滑り止め仕上げ	×	未整備。
	エレベーター（未整備）	各階停止	×	未整備。
		出入口幅・籠奥行確保	×	未整備。
		操作盤高さ適正	×	未整備。
	便所	車いす用便房あり	×	未整備。
		オストメイト対応便房	×	未整備。
		出入口段差なし	×	未整備。
手すり・便座配置適切		×	未整備。	
駐車場		車いす用区画（幅350cm）	○	配置あり。
		出入口近接配置	○	近接に配置あり。
案内・標識		バリアフリー案内表示	×	未整備。
		点字・誘導ブロック設置	×	未整備。
客席・観覧席		車いす席確保	△	外周通路より観覧可能。
		同伴者席隣接	△	外周通路より観覧可能。

資料：沖縄県福祉のまちづくり条例等を参考に作成

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

国スポ基準との整合性(施設全体・トラック面)

- 競技場としての基本条件は概ね満たしている一方で、安全地帯やインフィールド出入口となる地下道の未整備などの課題があり、現状のままでは国スポ開催に十分対応できない状況である。

国スポ施設基準		適合性	現況
1	敷地面積	2,300-2,500㎡以上	○ 約22,800㎡で基準(2,300~2,500㎡以上)を満たす
2	屋外滑走路周長	333m	○ 333.33mで基準適合。
	滑走路の幅員7.0m-9.0m		○ 幅7.5m確保。
3	滑走路の構造	即乾燥性不透水性	△ 即乾燥性舗装(アスファルト2層)。経年劣化あり
4	安全地帯(ブルーバンド)	最小4M	× 幅4m未滿
5	コーナー及びバンク	滑走路長さ15M以上等	○ 勾配・長さとも基準適合
6	直線部	通常6°~8°(15°を超えない)	○ 勾配6~8°で基準適合
7	胸壁または金網壁	最低90CM	○ 高さ90cmを満たすが、錆が発生
8	滑走路の表示線	内側10%をブルーに塗りブルーバンドとする	△ ブルーバンド塗装あり
9	排水設備	ブルーバンドより50cm以内に有蓋堅牢の排水設備	○ ブルーバンド内側50cm以内に排水溝あり
10	補助滑走路	ウォーミングアップ、クーリングダウンの補助滑走路	× ウォームアップ走路なし
11	諸掲揚設備	競技場バック・ストレッチ側に設置	○ ポール設置あり
12	電源・配線設備		△ 電源容量不足、老朽化
13	放送設備	場内放送用スピーカー	△ インフィールドにスピーカーあり
14	審判施設		× 判定台・写真判定設備なし
15	管理に必要な施設		△ 管理棟老朽化、狭隘化。天井・壁損傷あり
16	インフィールド	走路より75-100cm低くする	○ 高低差・排水不足。芝地不均一
17	インフィールドへの出入口	地下道	× 地下通路なし、走路横断動線で安全上問題
18	観客席		△ 常設席なし、大会時は外周に簡易テント設置で対応
19	観客用付帯設備		× 観客用トイレ・売店なし
20	公認トラック備品		× 一部備品(判定機等)不足

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版(案)」、
(公財)日本自転車競技連盟「競技規則 付表5-1 3-5 自転車競技場及び施設に関する基準要項」から抜粋

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

国スポ基準との整合性(管理棟・審判施設)

- 管理棟・審判施設については、競技場運営に必要な諸室・機能の多くが未整備又は不足しており、現状のままでは国スポ開催に十分対応できない状況である。

※15 管理に必要な施設（詳細項目）		適合性	現況
1	管理事務室	△	管理棟老朽化、狭隘化。天井・壁損傷あり
2	自転車検査場・修理及び保管場所	×	設備なし。検車作業は屋外仮設対応
3	医務室	×	設置なし。救護対応は臨時テント
4	医事検査室	×	設置なし
5	競技者・役員の控室	×	管理棟面積（146㎡）不足、ゾーニング不十分
6	シャワー設備	×	給水設備劣化により使用不可
	トイレ	○	R8年度改修済み
7	競技者観覧席	×	常設席なし、大会時は外周に簡易テント設置で対応
8	通信連絡設備	×	一部有線電話のみ。無線通信環境不十分
9	競技者・役員の駐車場	○	

※14 審判施設（詳細項目）		適合性	現況
1	フィニッシュジャッジ台	－	設置なし
2	トラックセンターにコミセルのための施設	－	設置なし
3	判定台。見渡せる台、無線通信	△	管理棟2階
4	フィニッシュライン写真判定施設	－	設置なし
5	審判施設は競技者・観客から仕切られている	－	設置なし

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）日本自転車競技連盟「競技規則 付表5-1 3-5 自転車競技場及び施設に関する基準要項」から抜粋

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

施設改修の対応方針の検討

- 滑走路・安全地帯・インフィールド動線・管理棟など、競技安全性に直結する基盤機能の改善が必須である一方、管理諸室や審判施設、観客席等の一部機能は仮設対応で補完可能である。

■施設改修の対応方針

区分	主な課題	改修重要度	対応方針（案）
老朽化	・ 走路舗装・バンク部の劣化（ひび割れ、白化、滑り止め機能低下、継ぎ目段差、不陸）	高	全面張替え必須：舗装面は全面更新を前提とし、あわせてバンク精度、不陸、段差是正を実施
	・ 管理棟の著しい劣化	高	建替え必須：屋根・構造・衛生設備の劣化が大きく、部分改修ではなく管理棟建替えを前提
バリアフリー	・ 観客席動線における敷地内通路のスロープ急こう配	低	仮設置による対応
	・ 管理棟におけるバリアフリー設備	－	管理棟立替時に検討を行う
施設基準	・ 補助滑走路の不足	低	仮設置可能
	・ 安全地帯不足・ブルーバンド不足	高	改修必須：舗装全面張替えと一体で、安全地帯幅の確保とブルーバンド整備を実施
	・ ブルーバンドより50cm以内に有蓋堅牢の排水設備	高	改修必須：舗装全面張替えと一体で、安全地帯幅の確保とブルーバンド整備を実施
	・ インフィールドフェンスが未設置	高	改修必死：安全性確保のためフェンス整備
	・ インフィールド出入口となる地下道未整備	高	地下道新設必須：走路横断動線では安全上支障があるため、地下道新設を前提
	・ 電源容量不足・配線・放送設備の設置	高	管理棟設備として整備
	・ 管理棟・審判施設等の諸室不足事務室・検車場、修理、保管場所、医務室、医事検査室、競技者・役員控室、通信設備など管理に必要な正接の不足	高	建替え必須：大会運営に必要な諸室機能を満たすよう、管理棟を再整備する。 一部、仮設対応可
・ ローラー場の狭隘化、不足	低	仮設置可能	

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

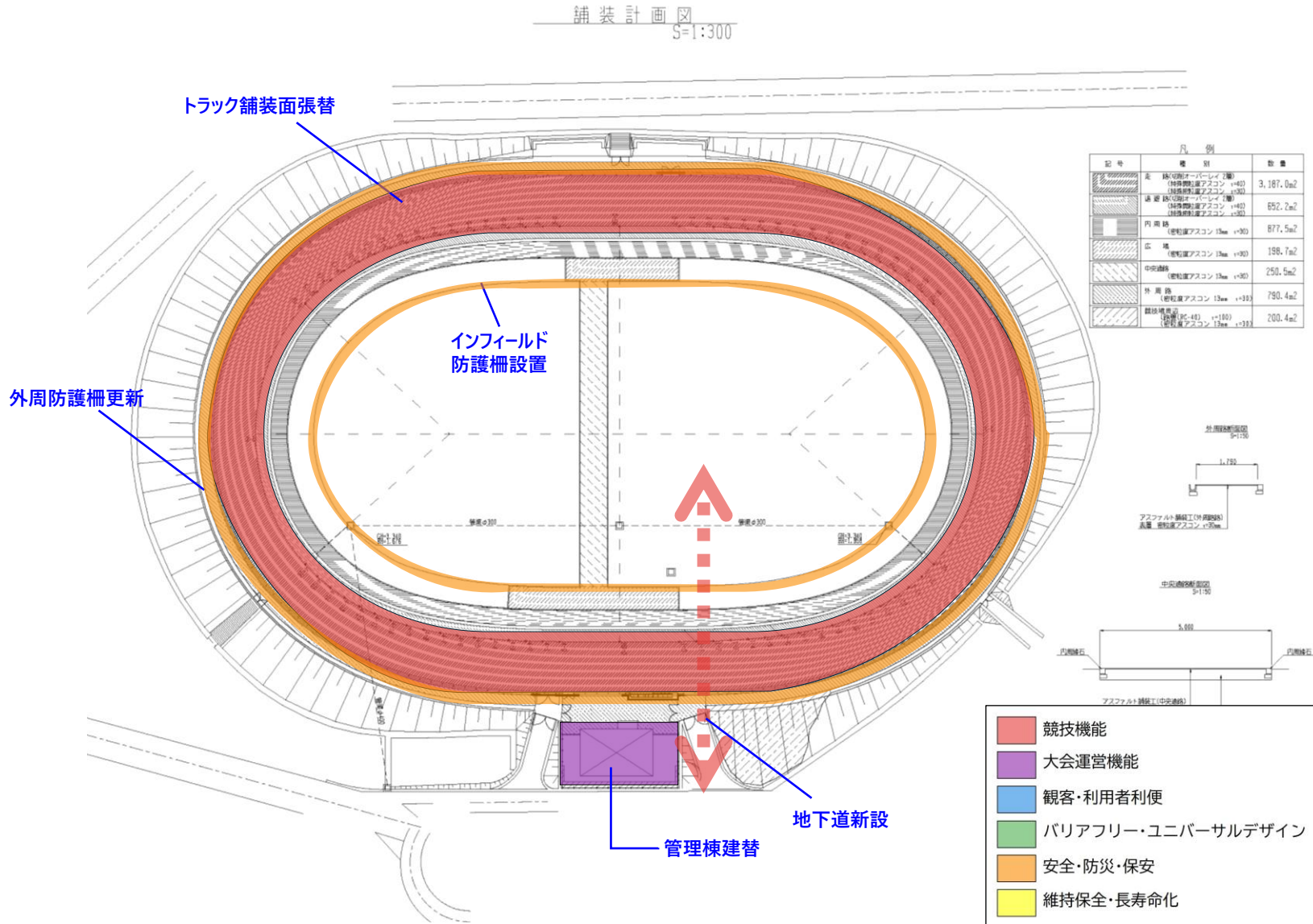
整備箇所の整理

- 対応方針の検討より、仮設で対応可能なものは仮設対応とする。
- 管理棟の建替えに併せて、バリアフリー対応を検討する。
- 地下道の新設にあたっては、設置個所・ルートを考慮する。

区分	整備箇所	概要
競技機能	舗装全面張替え	<ul style="list-style-type: none"> • 走路・バンク舗装を全面更新し、ひび割れ、白化、滑り止め機能低下、継ぎ目段差、不陸を解消
	安全地帯・ブルーバンド整備	<ul style="list-style-type: none"> • 国スポ基準に対応するため、安全地帯幅の確保とブルーバンド整備を実施
	地下道新設	<ul style="list-style-type: none"> • インフィールドへの動線確保のため、地下道を新設 • 緊急車両の停止位置に配慮が必要
	防護柵設置	<ul style="list-style-type: none"> • インフィールドに防護柵を新設 • 外周路のフェンスの更新
大会運営機能	管理棟建替え	<ul style="list-style-type: none"> • 老朽化した管理棟を建替え、競技運営・審判・大会管理に必要な諸室機能を再編整備
	音響整備	<ul style="list-style-type: none"> • 場内放送、競技案内、運営指示に必要な音響設備を更新

(4) 県総合運動公園 自転車競技場

自転車競技場の整備箇所イメージ図



(4) 県総合運動公園 自転車競技場

整備案の概算整理

項目		規模・仕様	単価	数量	単位	改修費概算
建築	管理棟建替え	規模は宮崎県事例を参考	763,000	320	m ²	244,160,000
設備	音響		4,094,600	1	式	4,094,600
舗装等	舗装全面張替等	安全地帯・ブルーバンド整備 ・防護柵設置	35,948,000	1	式	35,948,000
地下道	地下道新設		492,965,000	1	式	492,965,000
合計						777,167,600

整備スケジュール案の整理

- 自転車競技場の整備は、舗装全面張替・地下道新設といった競技基盤の改修に加え、管理棟建替え、音響更新を伴うため、土木・建築・電気設備を段階的かつ一体的に進める工程設定が必要である。

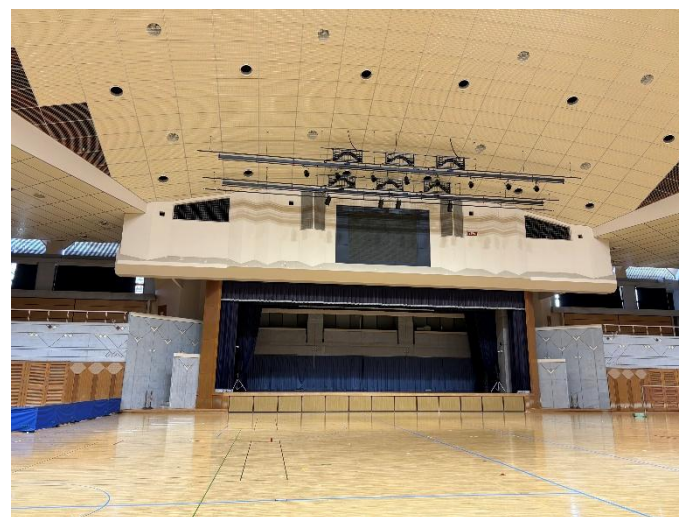
作業項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本設計(基本計画含む)									
実施設計									
各種手続き等									
改修工事									
大会リハーサル								●	
国スポ開催									●

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

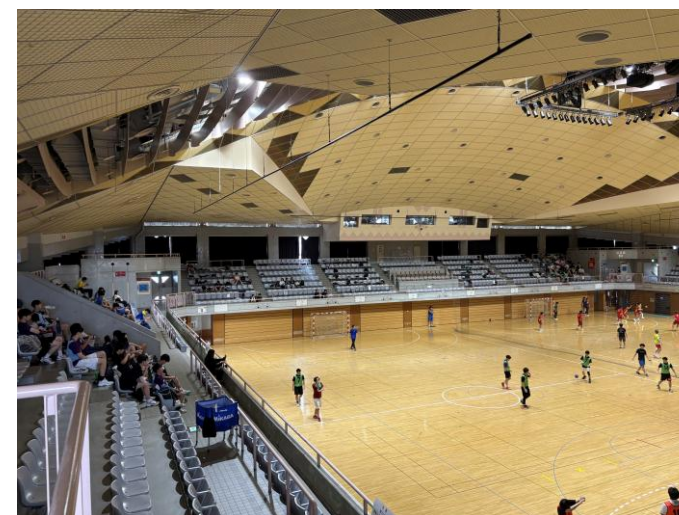
施設の概要

項目	施設情報
所在地	那覇市奥武山町52番地
敷地面積	12,612㎡
構造・階数	鉄骨・鉄筋コンクリート造 地下1階/地上3階
建築・延床面積	6,458㎡・13,145㎡ (アリーナ棟：7,661㎡) (錬成道場棟：5,484㎡)
建築年	アリーナ棟：平成9年(1997年)7月【築29年】 錬成道場棟：平成7年(1995年)2月【築31年】
法定耐用年数	60年
耐震性	有
根拠法令等	沖縄県立奥武山総合運動場の設置及び管理に関する条例
総事業費	アリーナ棟：3,265,247千円(国庫785,221千円) 錬成道場棟：1,994,286千円(国庫484,219千円) その他：665,323千円(39,260千円) 合計：5,924,856千円(国庫1,308,700千円)

項目	アリーナ棟の仕様・概要
縦(m)×横(m)	51×42
面数等	柔道、剣道、レスリング：6面 空手道、銃剣道：8面 なぎなた：4面
観客席数 (固定席)	固定1319席、ロールバック675席



武道館アリーナの舞台



観客席とアリーナ

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

施設の老朽化状況

- 県立武道館は、屋根の雨漏り、天井の安全対策、アリーナ床の反り、トイレの洋式化など、建築・設備の両面で老朽化が進行している。特に雨漏りに起因する床の不具合は安全性に影響しており、現状のままでは利用環境の維持が難しいため、早期の改修が必要である。

区分	箇所	現況・劣化状況	推定劣化度
建築	屋根	・ 一部で雨漏りが発生	D
	天井	・ 吊り天井は耐震安全性の確認・対策が必要。	D
	アリーナ床	・ 床はリコーティング3回目、張替が必要。雨漏りの影響で床板が反って浮き、継ぎ目に段差が発生	D
	倉庫	・ 備品収納は狭隘。倉庫扉は劣化により動かさない。	C
設備	照明	・ 照明はLED化済みであるが国スポ開催時に要更新。	B
	一般トイレ	・ トイレ改修が必須。洋式化が必要。	C

(A = 良好、B = やや劣化、C = 劣化進行、D = 著しい劣化、E = 重大な劣化／更新要)



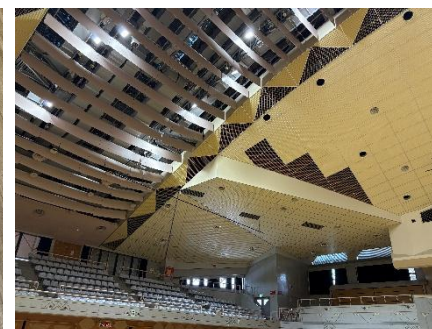
トイレ（洋式化が必要）



倉庫（狭隘化）



床面劣化あり（雨漏りが影響）



吊り天井のため対策が必要

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

バリアフリーの状況

分類	チェック項目	評価	補足（現地観察・資料コメント）
1. 敷地内通路・出入口	通路幅120cm以上	○	全体的に余裕ある歩行帯を確保。一部狭隘。
	滑りにくい仕上げ	○	アスファルト・タイルともノンスリップ。
	段差なし／スロープあり	△	所々に段差あり、手すりなし。
	出入口幅80cm以上	○	各入口で十分な有効幅を確保。
	自動ドア等で容易に開閉	△	一部自動ドア、他は手動。
2. 廊下・動線	幅120cm以上	△	3F車いす観客席への通路一部狭隘。
	滑りにくい仕上げ	○	フローリングにノンスリップ加工。
	階段・傾斜路前に点状ブロック	×	設置なし。
3. 階段・傾斜路	手すり設置	○	片側手すり設置済み。
	勾配1/12以下	△	一部勾配が基準以上、高さ75cmごとの踊り場なし
	段鼻色コントラスト	×	基本的に未施工。
	滑り止め仕上げ	×	基本的に未施工。
4. エレベーター	各階停止	○	錬成道場～観覧席間で設置。
	出入口幅・籠奥行確保	○	幅900mm・奥行1400mm超。
	操作盤高さ適正	○	車いす利用高さ基準内。
5. 便所	車いす用便房あり	△	1階のみ。上階に未設置。
	オストメイト対応便房	×	設置なし。
	出入口段差なし	△	多目的トイレはフラット。普通トイレは基本段差あり。
	手すり・便座配置適切	○	多目的トイレのみL型・背面バー設置済み。
6. 駐車場	車いす用区画（幅350cm）	○	バリアフリー新基準内
	出入口近接配置	△	歩行距離やや長い。
7. 案内・標識	バリアフリー案内表示	△	ピクトサインあり、点字表示なし。
	点字・誘導ブロック設置	△	点字ブロックが昇降口でとまっている。
8. 客席・観覧席	車いす席確保	△	錬成道場から屋外の通路経由でアクセス。バリアフリー新基準では座席の0.5%以上必要。
	同伴者席隣接	×	同伴者席指定なし。

資料：沖縄県福祉のまちづくり条例等を参考に作成

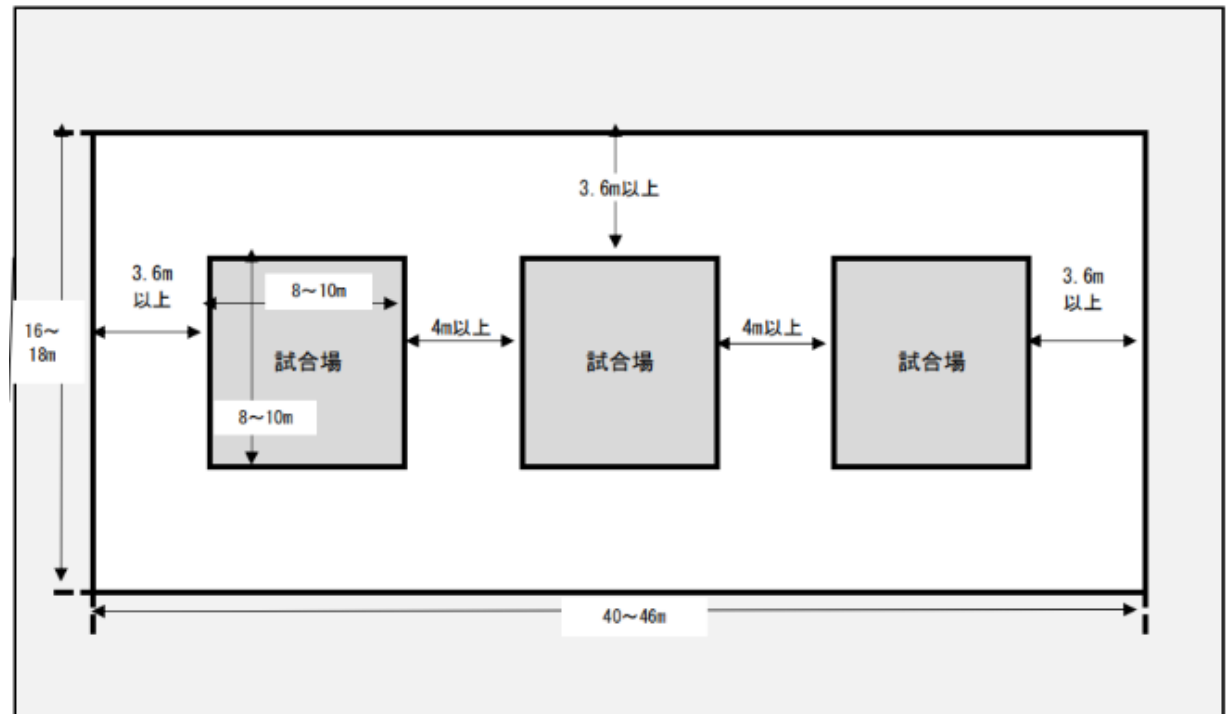
(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

国スポ基準との整合性(柔道)

- ・ 競技場3面の確保、隣接した練習場の確保、試合場間の4m安全地帯の確保について概ね国スポ基準を満たしており、柔道競技会場としての空間条件は概ね適合している。

■柔道(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準 (柔道)	適合性
■ 規定の競技場 3 面を有する柔道場又は体育館	○
※ 試合場は原則として床面に直接畳を設置する。ただし、床面が固く弾力がない場合は、かさ上げするなど、選手の安全を考慮して設置する。	-
■ 試合会場に隣接した練習場 (150 畳程度) がある	○
● 2 つ以上の隣接した試合場を設ける場合、両試合場の間には 4 m の共用の安全地帯を確保しなければならない。	○



資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、国際柔道連盟「試合審判規定」から抜粋

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

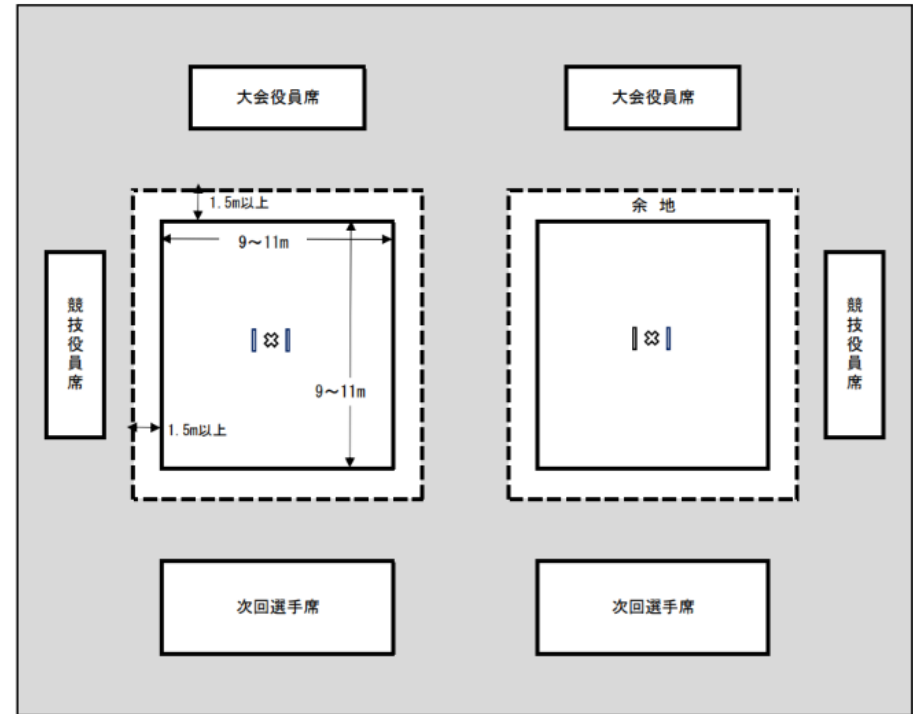
国スポ基準との整合性(剣道)

- 剣道競技に必要な試合場数、床条件、試合場寸法、外周余地を満たしており、国スポ基準には概ね適合している。

■剣道(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準（剣道）	適合性
■規定の競技場2面を有する剣道場又は体育館	○
●試合場の床は、板張を基本とする	○
●試合場は、境界線を含み一辺を9mないし11mの、正方形または長方形とする	○
●試合場の外側に原則として1.5m以上の余地を設ける	○

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」及び「剣道試合・審判細則」から抜粋



(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

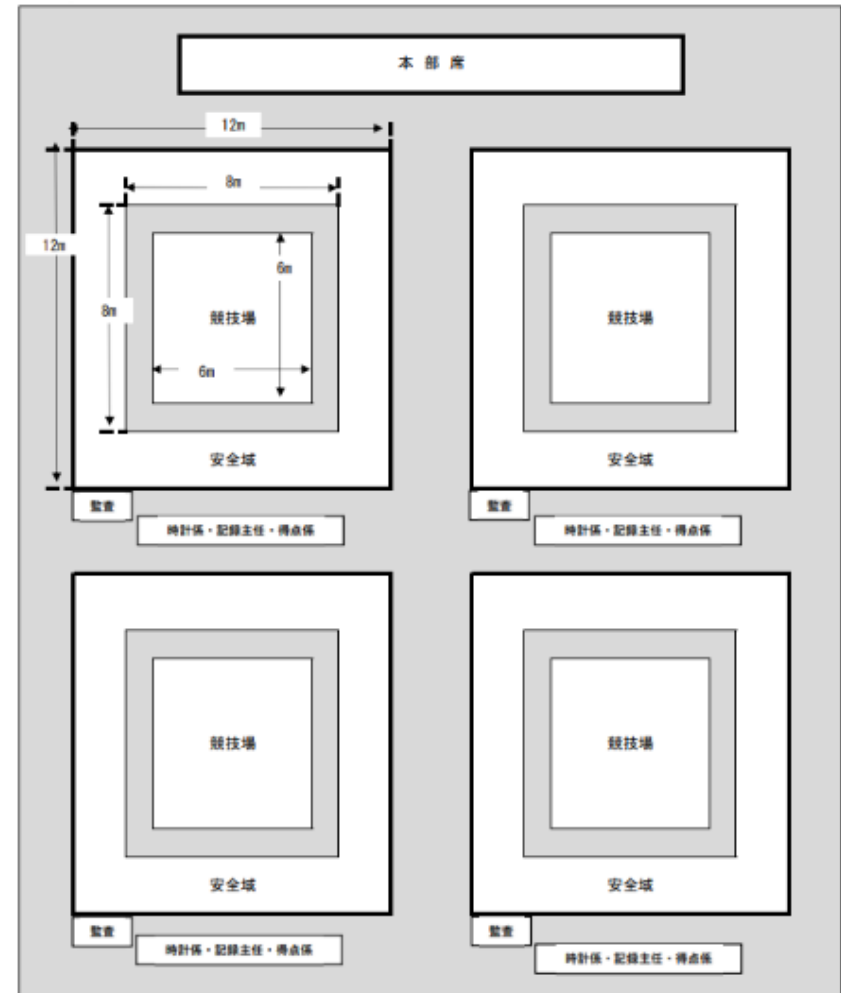
国スポ基準との整合性(空手道)

- 空手競技に必要な競技場4面の確保、競技場寸法、安全域の確保について国スポ基準に適合しており、基本的な空間条件は概ね満たしている。

■空手道(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準（空手道）	適合性
■規定の競技場4面を有する空手道場又は体育館	○
●競技場は、マット敷きで一辺8m（外側から計算して）、安全域としての各辺2mを含む正方形でなければならない。まわりに2mの安全域を設けなければならない	○
●競技場安全域外側周辺1m以内には、広告板、壁、柱等があってはならない	○
●使用するマットは、全空連承認のものであること	—

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）全日本空手道連盟「空手競技規定」から抜粋



(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

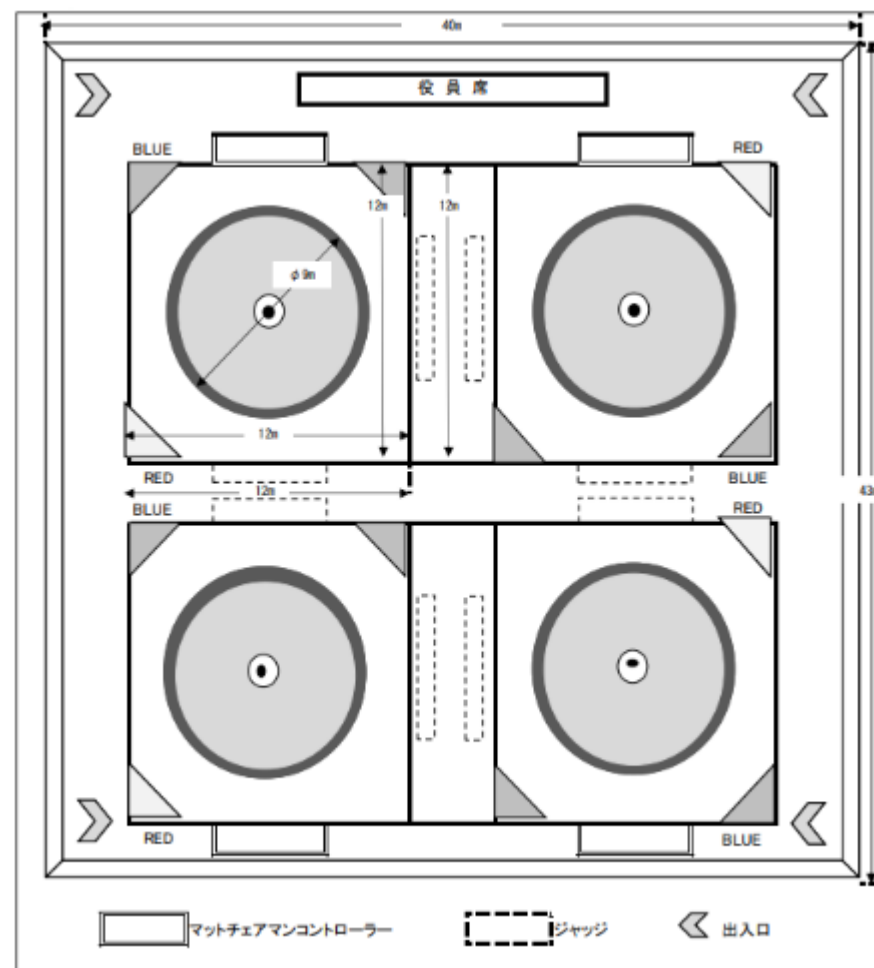
国スポ基準との整合性(レスリング)

- レスリング競技に必要な4面配置が可能であり、空間規模としては国スポ基準に概ね対応可能と考えられる。

■レスリング競技(国スポ施設基準)との適合性

国スポ開催施設基準 (レスリング)	適合性
■規定のマット4面を設置することができる体育館	○
●マットは、9 mの直径の円形で、1.5m幅の同じ「厚さ」の補助部分を有するものとする	○
●マットに隣接する木質部分のフロアは、柔らかい材質のカバーで完全に覆わなければならない	○
●競技会を円滑に運営するために、マット周辺には適切な広さのフロア残余部分を有しなければならない	○
●マットの余地は4 mが望ましい	○
●観客の視野を確保するために、1.1mまでの高さの「プラットフォーム」上にマットを設営することが望ましい。	○

資料：沖縄県「第88回国民スポーツ大会競技施設基準・暫定版（案）」、
（公財）日本レスリング協会「レスリング国際ルール（第4条）」から抜粋



(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

施設改修の対応方針の検討

- ・ 県立武道館アリーナは、屋根・吊り天井・アリーナ床に関する老朽化が進行しており、加えてトイレ・観客席・主要動線等のバリアフリー不足も重なっている。
- ・ 対応方針は改修を基本とし、吊り天井対策・床改修を優先した上で、トイレ・観客席・動線・案内表示のユニバーサルデザイン化を計画的に進め、国スポ開催に必要な施設水準の確保を図る。

区分	主な課題	改修重要度	対応方針（案）
老朽化	・ 屋根：一部で雨漏りが発生	高	改修：R9年度に屋根改修を実施予定
	・ 吊り天井：安全性の確認・対策が必要	高	改修：安全確保を最優先に、吊り天井の点検・耐震化・落下防止対策を実施
	・ アリーナ床：雨漏りの影響により床板の反り・浮き・継ぎ目段差が発生	高	改修：床の全面改修を基本とし、下地補修と仕上げ更新を一体的に実施
バリアフリー	・ 主要動線：一部に段差・狭隘箇所があり、自動ドア未整備箇所もある	高	改修：主要出入口から観客席・トイレまでの動線を見直し、段差解消、必要箇所のスロープ・エレベーターを整備
	・ 階段・傾斜路：点字ブロック、段鼻コントラスト、滑り止めが未整備	高	改修：階段・傾斜路の安全対策として、点字ブロック設置、段鼻表示、滑り止め施工を実施
	・ トイレのUD対応不足（洋式化必要、上階に車いす便房なし、オストメイト未整備）	高	改修：トイレの全面改修を基本とし、洋式化、多機能トイレ整備、オストメイト対応設備の設置を実施
	・ 観覧環境のUD対応不足（車いす席不足、同伴者席未整備、アクセスが屋外経由）	高	改修：車いす観覧席・同伴者席を整備し、観覧動線の見直しを実施
	・ 案内・標識：点字・誘導表示が不足	中	改修：案内サインを再整理し、点字・触知案内を含む誘導表示を整備
施設基準	・ 照明：LED化済みであるが、国スポ開催時には更新が必要	中	更新：競技・観覧に必要な照度確保のため、照明設備を計画的に更新
運営機能	・ 倉庫：扉の劣化により動作不良、備品収納環境にも課題	中	改修：倉庫扉の更新を行うとともに、備品収納機能を見直し、運営環境を改善する。

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

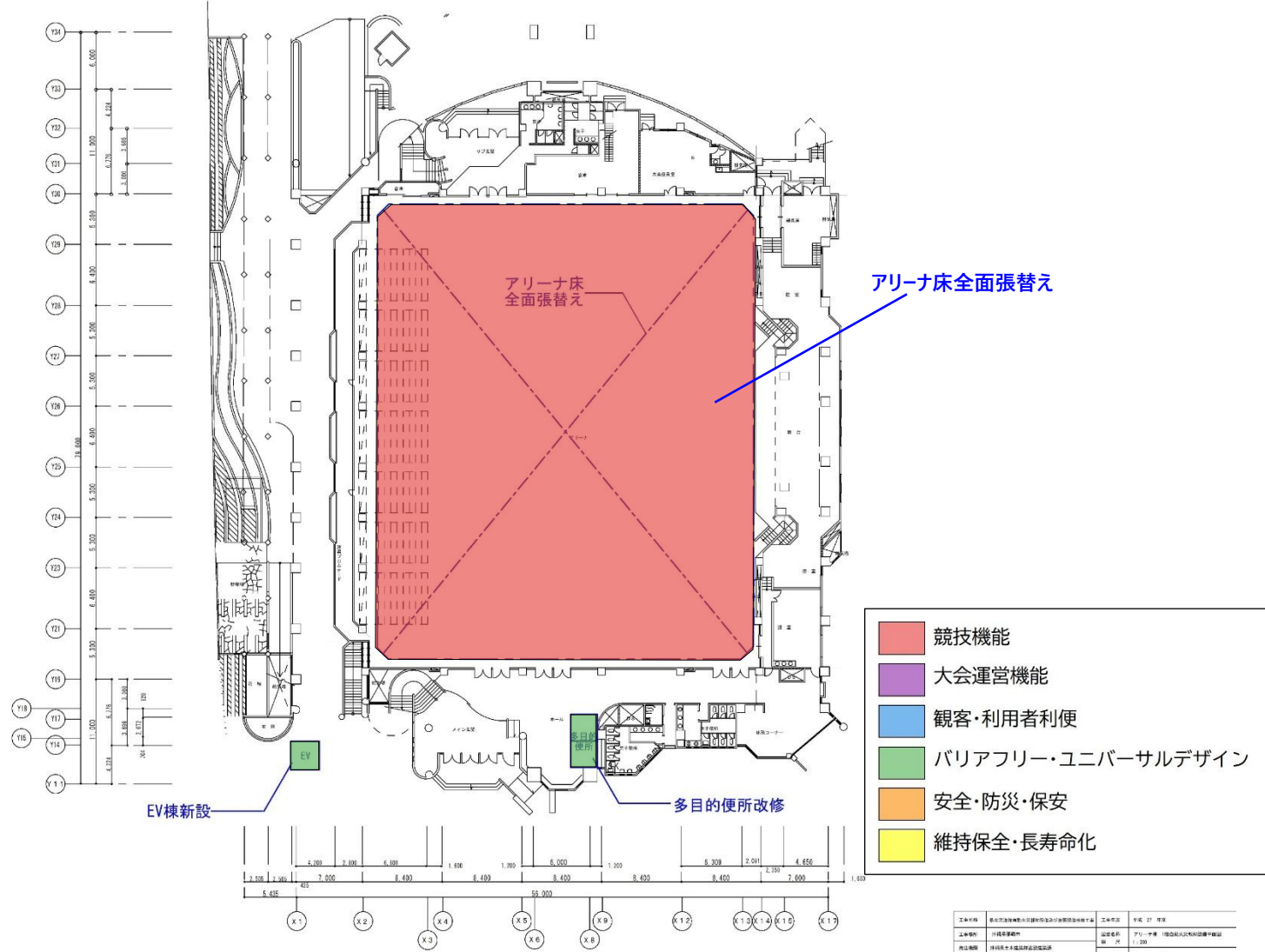
整備箇所の整理

- ・ バリアフリー化におけるエレベーター棟の新設については、屋内設置が困難なことから屋外設置となるため、整備については十分に検討する必要がある。
- ・ 利用者利便性を考慮し、トイレを洋式化及び多目的トイレの改修を図る。

区分	整備箇所	概要
老朽化	アリーナ天井改修	・ 吊り天井の安全性確保のため、耐震・落下防止対策を含む改修を実施
	アリーナ床全面張替え	・ 床の反り・浮き・段差を解消し、安全性・競技性を確保
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	EV棟新設（要検討）	・ 1～3階の円滑な上下移動確保のため、車いす利用に対応したEV棟を新設
	多目的トイレ改修	・ 車いす利用者等に配慮した多機能トイレに改修し、オストメイト対応を図る
	通路・出入口の段差解消	・ 主要動線の段差を解消し、出入口から館内各所への移動の円滑化を図る
	音声案内追加	・ 施設出入口や多目的トイレに音声案内を整備し、視覚障がい者等への案内機能を向上
施設基準	LED照明改修	・ 競技に必要な照度を確保するため、アリーナ照明をLED化・更新
運営機能	更衣室・男女便所改修	・ 老朽化した更衣室・男女便所を改修し、洋式化を図る
	衛生設備改修	・ 衛生器具・配管等の更新を行い、安定した施設運営機能を確保

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

整備箇所イメージ図(1階・アリーナ側)



アリーナ棟 1階自動火災報知設備平面図 S-1/200

工事名称	奥武山公園武道館1階自動火災報知設備改修工事	工事所在地	平成 27 年度
工事種別	消防設備改修	竣工年月日	アリーナ棟 (総合武道館)改修工事
発注機関	消防科+1階消防設備改修課	図面番号	S-1/200
図面	平面図	図面名称	アリーナ棟 (総合武道館)改修工事
作成者	中野 誠	図面作成者	大塚 隆也
承認者		図面承認者	
作成日		図面作成日	
図面枚数	1/1	図面枚数	
図面サイズ	A3	図面サイズ	
図面形式	縦向き	図面形式	
図面内容		図面内容	

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

整備箇所イメージ図(1階・錬成道場側)

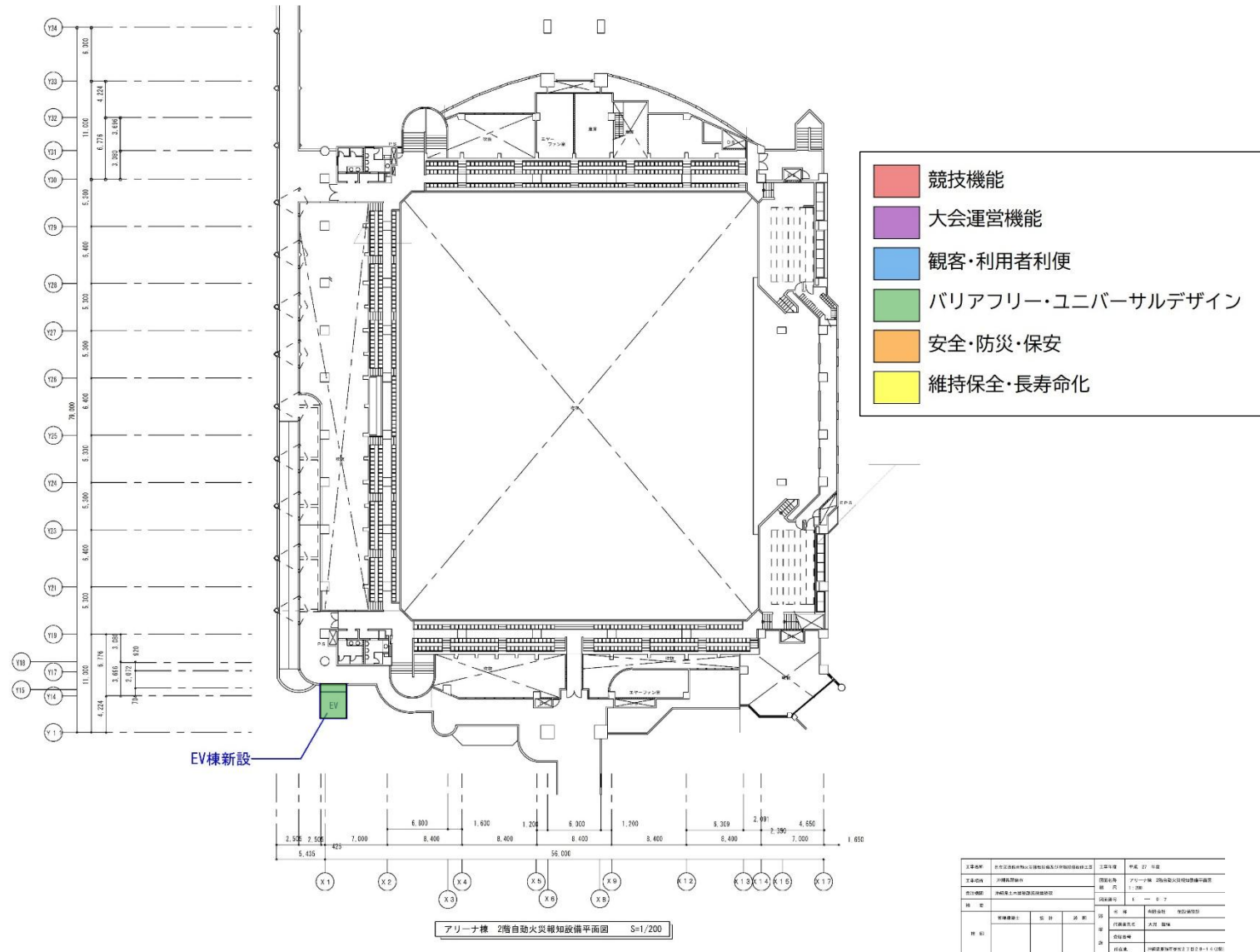


錬成棟 1階自動火災報知設備平面図 S-1/200

工事名称	県立武道館アリーナ1階自動火災報知設備の更新設備工事	工事年度	平成 27 年度
工事種別	更新設備工事	事業種別	1階自動火災報知設備更新
建築面積	1,100	建築費	1,100
竣工時期	平成27年10月31日現在	設備番号	1-1-0
製 造	製造元	名 称	自動検知 設備設計
製 造	製造元	名 称	大衆 設備
製 造	製造元	名 称	
製 造	製造元	名 称	

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

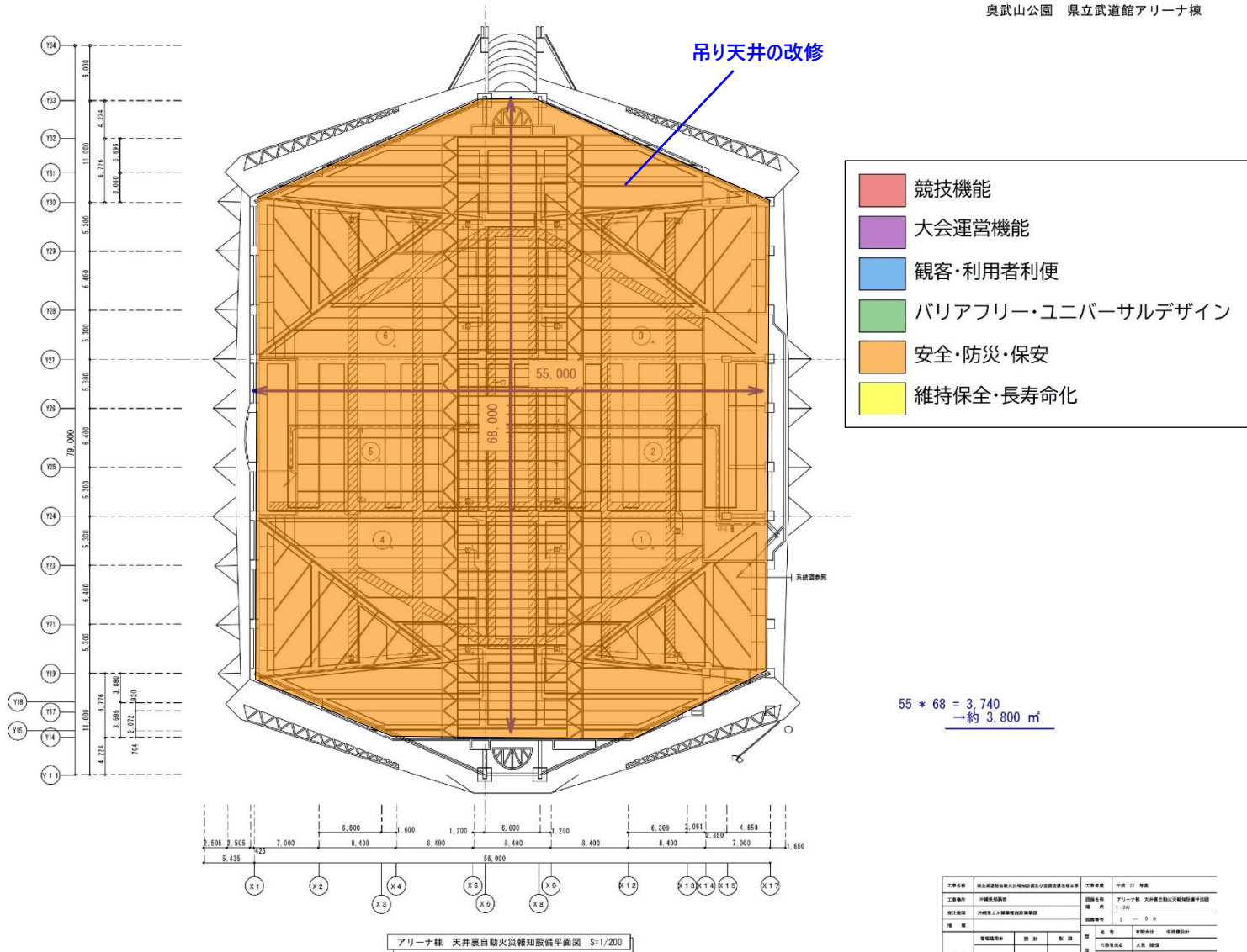
整備箇所イメージ図(2階)



(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

整備箇所イメージ図(天井)

奥武山公園 県立武道館アリーナ棟



工事名称	埼玉県武道館（旧県立武道館）改修工事	工事概要	中修 2F 増設
工事種別	改修工事	建築名称	アリーナ棟 天井裏自動火災報知設備増設工事
設計者	有限会社大塚建設設計事務所	建築面積	7,200
棟名		階層数	5 - 0 - 0
棟目	管理棟	名称	事務所
	設計	代表者氏名	大塚 隆博
棟	設計	設計者	大塚 隆博
	設計	設計者	大塚 隆博
棟		所在地	埼玉県熊谷市有馬2丁目3-14(旧)

(5)奥武山公園 県立武道館アリーナ

整備案の概算整理

項目		規模・仕様	単価	数量	単位	改修費概算
建築	EV棟新設	着床3階 13人乗身障害者対応	76,565,000	1	か所	76,565,000
	天井改修		31,500	3,800	m ²	119,700,000
	アリーナ床全面張替え		37,500	2,150	m ²	80,625,000
	多目的便所改修		3,000,000	2	か所	6,000,000
	通路、出入口の段差解消	スロープ小 (H150以下)	470,000	7	m ²	3,290,000
	更衣室・男女便所改修		13,500	120	m ²	1,620,000
機械設備	音声案内追加	施設出入口+多目的便所	580,000	2	か所	1,160,000
	衛生設備改修	事例より設定	11,564,000	1	式	11,564,000
電気設備	LED照明改修		23,550	13145	m ²	309,564,750
合計						610,088,750

整備スケジュール案の整理

- ・ R9年に屋根改修を予定。その後、アリーナ床全面張替の実施等を進めていくこととする。

作業項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本設計(基本計画含む)									
実施設計									
各種手続き等									
改修工事									
大会リハーサル								●	
国スポ開催									●